

長野 志伸さん（平成29年卒）

国土交通省 東北地方整備局 勤務

◇お仕事の内容を教えてください

国土交通省東北地方整備局に今年度採用になり、現在は宮古市にある三陸国道事務所で勤務しています。

現在の事務所では主に「三陸沿岸道路」と「宮古盛岡横断道路」の2つの幹線道路の調査、計画や整備を行っている他、国道45号の道路パトロール等の管理も行っています。その中で私は工事発注に関わる工事価格の算出などの業務を担当しています。



◇仕事を通じどんなことに喜びを感じますか

沿岸地域で建設が進められてきた三陸沿岸道路の開通に立ち会う機会がありました。開通当日からたくさんの方に利用していただき、震災復興のリーディングプロジェクトとして整備された三陸沿岸道路が被災地をはじめ多くの方に必要とされていることを大変うれしく思いました。普段は何気なく通る道路ですが、利用するすべての方に対して道路ネットワークという形でサービスを提供し、人やモノの円滑な流れで暮らしの利便性向上をサポートできることの喜びを実感しました。

◇将来の夢を教えてください

10年後、20年後に社会で必要とされる高い技能を備えた職員になることが目標です。今はまだ不慣れな業務についていくので精一杯ではありますが、震災10年の節目の年に三陸沿岸地域の復興に携わっていることの誇りを忘れず、毎日の仕事で多くのことを学んでいきたいです。

プライベートでは、専北で本格的に始めた陸上を今後もライフワークとして楽しみながら続けていきたいと考えています。大会に参加しながらランニング仲間をつくるなどして、赴任した土地で名前を覚えていただけるような選手でいられたらいいですね。

◇専大北上高校ではどんな高校生活を過ごされましたか

部活動中心の高校生活でした。私が入学したのがちょうど陸上部の部員が集まり始めた年で、それぞれ力のある仲間たちと共に、全国の舞台で勝負できるチームになることを目標に掲げ練習に励みました。しかしその道のりは非常に険しく、日常の多くの時間を陸上に捧げて努力を重ねても、なかなか理想の成績に届かない日々が続き、自己嫌悪に陥ることもしばしばありました。

結局3年間で全国大会への出場は叶わず、私は陸上での大学進学を諦めたことで監督や仲間たちに本当に迷惑をかけました。それでも主要な大会で大きな結果を残した喜びは間違いなく専北でしか味わえないものだったと思いますし、陸上部で培った精神力は一生物の財産になったと感じています。支えてくれた仲間たちには本当に感謝しています。

◇専北生に伝えたいメッセージは何ですか

みなさんは日々部活動に勉強と忙しい毎日に汗を流していることと思います。専北での高校生活は、同じ目標を持った仲間たちと目標の実現に向けて全力で取り組むのにとっても適した場ではないかと思っています。

さて、みなさんは部活動や勉強を楽しめているでしょうか。私は正直どちらも全く楽しくありませんでした。というより、楽しむこと自体を許されていませんでした。大学に入ってから気がついたことですが、同じ結果になるのであればその過程は楽しんだ方が絶対お得です。残酷ではありますが「最後まで結果が出なかったけど努力は人一倍積んだ人」より「ちょっと抜けたところもあるけど毎回しっかりと結果を出す人」の方が評価されるのが社会だと感じました。かつての私のように楽しむことをタブー視される環境でない限りは「つらい」よりも「楽しい」気持ちにフォーカスして、目の前の課題に打ち込んだ方が圧倒的によい結果にも繋がりやすいと思っています。きっかけは何でもいいと思うので、ぜひ目標に向かって楽しみながら頑張ってみてください。応援しています。

☆取材後記

長野さんは在校時、陸上部の選手として練習に打ち込むだけでなく、特別進学コースで勉強にも注力し国立秋田大学理工学部にて現役合格、大学進学後も気を緩めることなく、昨年、コロナ禍の厳しい状況の中、難関の国家公務員一般職試験に合格し国土交通省に入省されました。

本校では、部活動と勉学の両立に苦勞している生徒も多いと思いますが、長野さんの「楽しい気持ちにフォーカスして目の前に課題に打ち込む」というメッセージを参考にしてみてください。

長野さん、社会人人生を思いっきり謳歌して下さい。(担当：Y)